

## いつもの日曜日

若い男女

小学生兄弟とその父親

中年夫婦

疑似家族

売店の店員

成金風のカップル

セグウェイに乗った人たち

○ いわきマリンタワー

上りのエレベーター。

人々は適度に密着している。

小学生と思しき兄弟。その父親。若い男女。中年夫婦。

扉が開く。降りようとする人はいない。

兄弟の兄が「閉」ボタンを押す。

少し上がってまたすぐ扉が開く。兄、「開」ボタンを押し続ける。会釈をしながら降りる人々。

黙々と進む。外へ出る。外階段を上がる。屋上展望台・スカイデッキ。

展望台の先客、疑似家族の4人組。

姉（設定）が360度パノラマカメラで風景を撮影している。

太平洋。埋立地。小名浜マリブリッジ。アクアマリン福島、いわき・ら・らミュウ。小名浜イオン。

開店祝いのアドバルーン。小名浜市街。三崎公園。野外音楽堂、ローラーコースター。おかしな形の遊具、タコ、イルカ、亀。砂浜、学校。住宅。

人々、風景を見つめたり何か話したりしている。

兄弟は、はしゃいでいる。

疑似家族、展望台を出て階段を降りて行く。

兄弟と父親も、階段を降りて行く。

若い男、「行こうか」と、女を促して展望台を後にする。

エレベーターに乗る人々。

若い男女、エレベーターには乗らず、階段を降りて行く。

屋上展望台のすぐ下、室内展望室で、兄弟が小突きあったり追いかけあったりしている。

高さ 59.9m の屋上展望台から地上 1F フロアまで。螺旋状の階段は続く。

階段途中に突如「海の勉強室」と書かれたプレートが現れる。

女「海の勉強室だって」

男「なんだろうね」

階段の壁にかけられている掲示物たち。

女「いわき市の地形」

女「いわき市の位置」

女「日本の港。江戸時代」

女、立ち止まる。

男も立ち止まる。

女「スズキ。スズキ科」

女「季節により生息場所を変え、移動に従って餌も変化する。夏期には川にも入る。肉は淡白で刺身、洗い、塩焼きなどが美味。…ウスメバル。カサゴ科。4、5年で20cmになり成熟する。若魚は流れ藻につく。刺身、煮付け、塩焼き」

男「食べ方は、説明文に必要なのだろうか」

女「キツネメバル。カサゴ科。北日本の魚で春季に胎児を持つ」

男「雑だね」

2人、歩き出す。

兄弟がじゃれ合いながら階段を降りてくる。2人を追い抜かす。

女「小名浜港へ出入りする船。所属国」

女「見て」

男「なに」

女「日本 1251 隻、パナマ 1258 隻、リベリア 509 隻。ソ連 690 隻」

男「ソ連」

女「ソ連」

女「メバル。フサカサゴ科。岩礁の発達した沖合や魚礁付近に生息する。煮付け、塩焼きなどにすると美味」

女「クロソイ。カサゴ科」

女「水深 10m~100m の岩礁域や魚礁に生息するが…」

女「刺身、煮付け、塩焼き」

女「ケガニ」

女「水深 30~200m の」

女「雄が大きく雌は」

女「美味」

女、掲示物が現れるたびに声にして読み上げ続ける。淡々と。こなしてゆく。

1F。

エレベーター近くにおみやげ売り場が併設されている。

若い男女、なにかを買いたいわけでもなく、流し見をする。

中年夫婦・妻「ええ。滋賀から」

売店店員「そうなんですね。新婚旅行以来ですと、なん年ぶりに？」

中年夫婦・夫「ここが出来たばかりの頃なので、30年くらいですね」

売店店員「そうなんですねえ」

売店店員「イオンには行かれました？」

妻「イオンですか？」

売店店員「そう。きのうオープンしたんですよ。通ってないですか？」

夫「通ってきてないですね」

売店店員「大きいですよ。ぜひ、このあとお時間あれば」

妻「ええ。行ってみますね」

売店店員「イオンのあたり、あの一带、津波でもう、ひどかったんですけど」

妻「そうなんですね」

若い男女、おみやげ売り場をあとにして、外に出る。

女「イオン」

男「いく？」

女「人酔いしそう。イオンなんてどこにでもあるし」

男「そうだね」

駐車場へ向かう階段を下り、女、タワーを振り返る。

男も振り返る。

女「形がかっこいいよね」

男「うん。なかなか楽しかった」

2人、タワーを見つめる。

成金風のカップルが、いちゃいちゃしながら2人のすぐ横を通り過ぎる。

男「いこう」

女「うん」

女「愛人かな」

男「愛人かもね」

車の近くまでついたところで、すぐ前の道路を、セグウェイに乗った人たちが通り過ぎて行く。

女「あ。ごめん。トイレ行きたい」

男「え」

女「ごめんどめんど。ちょっと待ってて」

女、再びタワーの方向へ。小走り。

男、煙草を吸いはじめる。

セグウェイ、元来た方向から再び戻ってくる。

男の前を横切る。

男、煙草の火を消して携帯灰皿に入れる。

男、女を待っている。

男、立ち尽くしながら。ずっと、待ち続ける。

(おわり)